

## 第8回県政ひざづめ談議結果概要

○開催日時：平成21年8月25日 15：30～

○開催場所：山梨県中小企業会館

〔司会〕

それではただいまから知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。  
では始めに横内知事からあいさつをいたします。

〔知事〕

皆様こんにちは。知事の横内正明でございます。

今日は各商工会の女性部長さん方に、県下各地からお忙しい中お集まりをいただきましてありがとうございます。皆さん方には日頃商工会の女性部長として商工会活動をお支えになると同時に色々なボランティア活動とか地域づくり運動に取り組んでおられるわけでありまして、本当に心強い、ありがたいことだというふうに思っております。これから本当に女性の皆さんにがんばっていただく時代であります。敬老の日が近づいてきましたが、敬老の日となると私もいつも100歳になられた方を訪問をするんですけど、最近はまだ数が多過ぎてとても訪問しきれない。これ去年の数字ですけれども、100歳を超える方は330人おりまして、その内男性はいくらかというと80人で、残り250人が女性、ということは圧倒的に女性が長生きで元気であるわけでありまして。これから地域を興していく、つくっていくには、やはり女性の皆さんの力が必要な、そういう時代になったというふうに思います。

今日は日頃そうやって地域活動をしておられる中で、色々とお気付きの点だとか、あるいは悩んでおられる点とかですね、県がもっとこうしたらいいんじゃないかというような点、色々おありになると思いますので、そんなことを是非お聞かせをいただければありがたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

まあ『ひざづめ談議』ということでもありますから、これはもうざっくばらんに、余り遠慮しないで日頃お考えになっていることを、そのまんま頭に浮かんだことをお話をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

〔司会〕

それでは、ここで本日出席をしております県の担当者を紹介させていただきます。  
商工団体の指導等を担当しております、清水商工企画課長です。

〔清水 商工企画課長〕

清水でございます。よろしく願いいたします。

〔司会〕

まちづくり対策などを担当しております岩波商業振興金融課長です。

〔岩波 商業振興金融課長〕

岩波でございます。よろしくお願いいたします。

〔司会〕

本日は先ほど知事からも話がありましたけれども、皆さんの日頃の地域づくり等につきまして忌憚のない意見交換を進めさせていただきたいと考えております。

対応時間はおおむね1時間を予定しておりますので、是非ともご協力をいただきたいというふうに考えます。それではよろしくお願いいたします。

〔知事〕

バッチをお着けになっていますが、これは女性部長のバッチですか。

〔参加者〕

商工会のバッチなんですけど、これは一応女性の、台が付いて赤いのが女性でございます。男性は青いのでございます。(笑)

〔知事〕

国会議員のバッチみたいですね。今選挙をやっているからこんな所にいるわけではないと思うから。そうですか。えー、なるほどね。よく似ていますね。

〔参加者〕

バッチだけ似て。でも、知事さん、バッチ今日ないじゃないですか。

〔知事〕

知事はバッチはないんですよ。

〔参加者〕

そうなんですか。

〔参加者〕

県会議員さんはあるんですよ。

〔知事〕

県会議員はありますね。

〔参加者〕

じゃあ一つ作ってもらえば・・・(笑)

〔知事〕

いかがですか。私もあらかじめそれぞれのご活躍を見させてもらいましたけども。

〔参加者〕

本当に今日のご苦勞さまでございます。

本日、県政ひざづめ談議の実施にあたりまして、知事さんにはわざわざお忙しい中をお越しいただきましてありがとうございます。知事さんの目的といたします県民と共に創る県政を推進する、そういうことにあたりまして、私たち女性部に目を向けていただいたことを本当にありがたく思っております。私ども県下2, 255名の商工会女性部員の会員がでございます。それぞれの地域で地域振興やまちづくり、産業の活性化、福祉の増進等、努めているわけでございます。本日は理事さん方に代表で参加していただいております。普段活動している中で、悩みとか、普段思っていること、こんなことを聞いてほしいわとか、そんなことを気軽にここで意見交換ができればいいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

県政の推進をしていく中で、私たち商工会女性部員との意見交換の結果が少しでも反映されまして、お役に立てればと思っております。

山梨県商工会女性部連合会の概要をちょっと簡単に説明したいと思います。

設立は昭和43年7月18日。現在会員が2, 255名でございます。私たちの目的としましては、連合会の事業を積極的に推進し、合わせて地区内における商工会女性部の健全な発展を図るための組織として女性部連合会を置いております。主な取り組みとしまして、県下25商工会女性部が実施する中小企業活性化の促進を目的とした提案型事業への助成支援。それから県下一斉部員の増強運動。それから主張発表大会を中心としまして、女性部交流研修会の開催。それから広報紙の作成、発行。それから全国大会、関東ブロック交流研修会への参加。商工会祭りへの参加と、リーダー研修、今年は9月から実施されることになっております。今年は特に農商工連携事業と、それから地域の資源活用事業を学ぶということでやっていきたいと思っております。

悩みもあるんですね。やっぱり高齢化、それから廃業によって部員の減少とか。一つ私お願いしたいことは、女性部が何か起業をしましうという時に、女性部のブランド展開をしたい。だけど今山梨県には、例えば食品関係ではその生産を受けてくれて、専門にやって下さる工場が少ないということで、私たちがいろんなものを創意工夫してやるんですけども、やはり商品化ということにおいて、その製品がちゃんとした工場で作れないという、そういうものを私たち一番今求めているところでございます。それが県全体、今のお話は県全体のことでございます。

また、甲斐市で私たちが取り組んでることをお話します。

まず私たちは毎年6月の初めから10日間、場所は双葉の大釜という所なんですけども、桑園でもって桑の実摘み観光をやっております。昨年度が大体入園者が800人。今年はマスコミが取り上げていただきましたので、特にYBSの生放送の旅サラダ、これがすごい反響を得まして、放送を見ながら、何か車の中にナビと、それからテレビが付いていて、そして高速道路が千円になったということで、信州に行こうとしたお客様が、「桑の実なんて懐かしいね」ということで、何かすごい大勢の方が方向変換をして大釜の畑に来てい

いただきました。私たち女性部も桑の葉を使った蒸しパンとか、お茶とかを作りましてね、そしてご提供させていただいたわけです。甲斐市ともお話をしまして、尊いこういう事業ですので、継続していただきたいということを説明、お願いしております。

[知事]

これがその桑の実ですね。

[参加者]

それは桑の実のジャムでございます。

[知事]

そうですね。ずいぶん活発に活動しておられるようで・・・。

[参加者]

私は南アルプス市なんですが、南アルプス市と言えば、スモモの貴陽という幻のスモモというのがありまして、そしてそれは全国的になりまして、一つでもすごい豪華な桐の箱に入れて、豪華に包装して東京なんかに出荷しているんですけども、女性部としてはその完熟したスモモを使って、ここにありますようにドレッシングを作ったり、そしてお菓子を作ったり、そしてお料理に使って・・・。

[知事]

そうですね。スイーツを作っているって言っていたものね。

[参加者]

この貴陽は、この間7月30日に果物として初めて伊勢神宮に奉納したんです。その奉納するというのは山梨県では珍しいそうです。その貴陽というのを作った人と、そして商工会の職員とか、普通の役員の人たちで伊勢神宮へ行きました、すごい奥まで行くんですよ。はっぴを着てね、それは豪華に、昔のお侍じゃないけども、そういうような感じで行ってきまして。その貴陽がまた一段と皆さんに親しまれるんじゃないか、宣伝されるんじゃないかと思います。私も一生懸命がんばって女性部の人たちと一緒に、地域のそういう農業を通じて、そして工業と商業と一緒に交ぜながら活躍していただきたいと思いますので、どうぞよろしくこれからもお願いをいたします。

[知事]

どうもご苦労さまですね。まあこれ有名ですよ。完熟フルーツ祭りなどというのをやって、特にこういうフルーツ、スイーツを作っておられるというのはね。結構売れているようですね。

[参加者]

結構今年はJRと提携しましてね。そして竜王駅からすぐバスで見学に大勢来られたん

です。

〔知事〕

貴陽というのは非常に全国のどこの市場でも評価が高くて、九州に行った時にも貴陽がね、非常に高かったですね。6個入りで2万円ぐらいしたかな。

〔参加者〕

すごく高いですね。大きいのは桃ぐらいになるんですよ。そして甘くてね。種が小さいから全部食べられる。そういうスモモですよ。それは甲西の高石さんという人が15年も前から、それを苗を育てて交配して交配して作られたものです。

〔知事〕

完熟したものを採ってその場で食べると特段またおいしいようですね。

〔参加者〕

そうですね。それがおいしいですね。本当はそういう形で食べていただくのが一番いいんですよ。そういうことを今やっているんです。まあよろしく願いをいたします。

〔知事〕

いかがですか。

〔参加者〕

道志村からまいりました。うちの村は小さくて、これといったあれはないんですけれども、村が観光に力を入れた時に、じゃあ女性部で何ができるかと。じゃあお客さんを花でもてなそうかということで、女性部が中心になって荒れ地を耕して、大きな花壇を作って・・・。

〔知事〕

花壇を作ったんですか。

〔参加者〕

花壇を作ったんですよ。そしたら各種団体の女性の方々が、あそこだけだったら映えないんで、じゃあいろいろな団体さんがここ、ここって、段々村に花が増えてきて、今はいろいろな所に花壇ができて。道志って長いんですよ、東西に28キロ、南北に4キロって、本当に細長い村なので、川下と川上では全然文化も違います。そんな村なんです。私たちは国道413号線を花でずっと飾って、富士五湖の玄関口ですか、神奈川から来ると本当に玄関口になるんですけれども、それを今、花でいっぱいにしていこうかということを目指しています。

〔知事〕

そうですか。それは素晴らしいことですね。民宿のお母さんでしたね。どの辺ですか、道志の。

〔参加者〕

うちのある所は、ちょうど都留市に行く道路と山中湖のあの分岐点の、あのちょっと手前の所に位置していますので・・・。

〔知事〕

道志は小さい村ですけれども横浜市と提携したりして、それから農山漁村交流プロジェクトとして、子どもたちの宿泊体験の受入事業を始めたりとか、いろんなことをおやりになってね、なかなかいい村だと思いますね。これから圏央道というのができて、あそこに城山インターというインターチェンジができると、非常に高速道路に近くなるものですから、また一段と交通量が増えるでしょうね。そういう意味でこれはもう道端に、ロードサイドにその花いっぱいということになると素晴らしいと思いますね。

〔参加者〕

そうなるようにがんばりたいと思っています。

〔参加者〕

この間は、ソムリエ・ドヌールの受賞おめでとうございました。138人目だそうで。なかなかいただけないものをいただいて、県としても、ぶどうの王国としてもいいんじゃないかなと思いきましてうれしいです。

私どもは勝沼ですので回りはほとんどぶどうと桃を作っています。気になるのが、干しぶどうというのを売っていますよね、売店とかで。それが国内産じゃないんですよ。何か県産の干しぶどうが作れる施設とかがあれば、堂々とこれは私たちの県産品ですよ、国産品ですよということが言えると思うんですけど。それが言えないというのがちょっとさみしいかなと思いますので、その辺のことをちょっと何か県としても考えてもらいたいです。県産品でできたら堂々と売れるし、そういうものも含めた県産品を東京の富士の国やまなし館で販売するイベントが行えればいいかなと思って・・・・。ほかの県でも一生懸命県産品をいろいろイベントをおこして売っています。そういう場を設けていただくとか、県でも何か考えていただければいいかなと思います。

〔知事〕

この間、だれでしたっけね、やっぱり懇話会じゃなかったかな、山梨産の干しぶどうを作ろうという話をね。そして現にお作りになって市販していますね。何か電気でできるんだそうです。電気で10何時間こうやると、うまい具合にですね・・・、だれでしたっけ。

〔岩波 商業振興金融課長〕

インターネットを通じて農産物を送ろうという・・・。

〔参加者〕

工場とか、そういうのがあれば、ワイン会社の隅でもいいですし、まあワイン会社と言えれば勝沼はいっぱいありますのでね、そういう所で・・・。

〔知事〕

もし女性部がおやりになるということであれば、あるいは女性部でなくたっていろんなNPO法人であれ、そういうことをおやりになるということであれば、県のほうでそういう設備を造ることについての助成制度なんかはあるんですよ。だからそれを誰がやるかどうかということなんですよ。

〔参加者〕

でもそれを造る工場とか設備がないと。

〔参加者〕

お金が問題ですよ。

〔知事〕

県が工場を経営するわけにはいきませんからね。やっぱりだれかそれをやりたい、やる、こういう事業者がいなきゃだめなんですよ。事業者がいればいろんな融資もあれば、補助も色々あるんですよ。今もういろんな方法があると思うんです。

〔参加者〕

そういうのってすごく望んでいるのね。

〔知事〕

例えば女性部がそういうことでやってみようじゃないかということであれば、例えばどこかワイナリーの方にも頼んで、ちょっとその辺の隅に一つそういうものを、そんなでかいものじゃないわけですから、是非お宅でどうかやってくれませんかということで話がつけばね。だれかがやるということでない、県が工場を経営するわけにはいかないからね。だから結局そういうのが必要だと。その事業を実施する人がね。

それから富士の国やまなし館を使ってやるというのは非常に結構なことで、それは言うていただければ十分そういうことはできると思います。したがって、それぞれ皆さん方が日を決めて、皆さん方がお作りになっているこういう物でもいいし、あるいは皆様方の甲州市の中の女性グループがいろんなことをやっていますよね。そういう珍しいその製品を持って行ってそこで売るといことも十分ありますね。それは是非やっていただければ、女性部全体の活動としてやっていただければ・・・。

〔参加者〕

こういうものを作っても、よそに外注しているんですよ。ジャムにしてもそうです。ですからよそへ外注するという部分が県内でできれば、そこが一応専門のそういう受け皿

になっていただくと、私たちがいろんなものをプランニングして、じゃあこれを商品化してほしいんですという時に、そこにできたものの中に山梨県商工会女性部というラベルが貼られると、すごく何かグレードアップして・・・

〔知事〕

商工会でどうですか、工場というか、そういう生産設備を造るというのはどうですか。

〔参加者〕

今までやったことのある方とか、そういう方が指導して、もちろんそういう人たちが生産する工場・・・

〔知事〕

甲斐市であれば例えば長谷川醸造さんとかですね、ああいうところが、小梅作っているわけですからね、甲州小梅作っているわけですから、そういうところがそういうことをやってくれるのであれば、それが一番いいですね。

〔参加者〕

受けてくれるといいんですけど。

〔知事〕

是非そういうのを探してきて下さい。

〔参加者〕

探すんですね、はい。探すと補助金が出るということでしょうか。

〔知事〕

事業主体がないとだめなんです。県がその工場を自ら造れと言われてもそうはいかない。やっぱりだれかがやらなければいけないですね。それに対して補助金を出したりとかということはできるわけですね。

〔参加者〕

本当ここはフルーツ王国ですので、いろんなものがジャム化されたり、ドレッシング化されたり、ソース化されたりというのは、その作れる工場があるとすごいグッドなんですよね。

〔参加者〕

またその時は是非・・・。

〔知事〕

富士の国やまなし館のことも、そういうふうなイベントをやりたいということであれば、



言っていただければ日はいくらでも取れますし、今でも空いているんですからね。

〔参加者〕

笛吹市からまいりました。

温泉のまちと果実のまち、両方で観光ということをさせていただいています。私たちはバラの花を通して笛吹市をアピールしています。それから駅舎の前も、古い駅舎ですけど、バラを市民の方たちがボランティアできれいに咲かせて、とても・・・。

〔知事〕

そうですね。あれいいですね。

〔参加者〕

駅に下りられた方が、「心がなごんでいいわね」なんて言っておっしゃられていますので、とてもいいかななんて思っております。

それから特産品を作ろうかなということで、笛吹市のためにこれから取り組んでいこうと、健康によいおからを使い、八代町と境川の特産物でもあるモロコシなどを入れたコロッケとか、八代町の茄子を使ってキューちゃん漬けなどを作る料理教室をいたしました。とても好評でした。いろんな特産物を使い、試作しながら取り組んでいきたいと思っておりますが、地域資源を生かした特産品の研究や料理教室は地域の公民館などでできるんですが、いよいよそれを事業化していくとなると、先ほどもこちらの方たちが色々なお話の中でございましたが、県ではどんなサポートがありますでしょうか。

〔知事〕

じゃあ、たまにはこの人に答えていただきましょう。どういう支援措置があるんですか。

〔清水 商工企画課長〕

アイメッセの所に産業支援機構というのがあるんですね。そこに事業化サポート事業という事業をやっているセクションがございまして、これは皆さんのこういうことをやりたいんだけど、何かどうやったらいいのかなという相談に乗ってくれる所なんです。その事業を使うとプロジェクトマネージャーという方が、どうやったらこの事業を前に進められるかと相談に乗ってくれるんです。ただ中には、これはどうしても商品化にならないよという結果も出ます。だけどもうまくいけば商品化につながるものもあります。私の承知しているだけでも、昨年相談に乗ったのが30何件あったんですね。今年ももう20件近く相談に乗っていますので、その中にはうまく事業化できたものもあるんです。ただ今知事さんがおっしゃられましたように、だれが事業の主体になるかということがはっきりしていないとだめなんです。ということで、産業支援機構へ一度相談してみただけませんか。私、話は伝えておきますので。

〔参加者〕

ありがたいことです。どうもありがとうございました。

[参加者]

すみません、いろいろお世話になっております。

ルート52のお祭りが今年3回目を迎えました。1回目はもう盛大にずいぶん人も出て下さいましたけども、今年はどうもちょっと少ないような気がいたしまして……。

[知事]

それは商店街のお祭りですか。

[参加者]

前の旧52号線の……

[知事]

旧52号線の商店街……

[参加者]

今は、甲西バイパスがすごく賑やかになりまして、車がそちらのほうに動いたものから、旧52号線は本当に、夜なんかは1台通っているか通っていないかぐらいの空いた形になっています。

[知事]

そうですか。はいどうぞ。

[参加者]

北杜市からまいりました。

明野の日照時間が日本一ということで、広大な土地にひまわりの種蒔きをもう何年もやっております。商工会女性部に要請がありまして、朝早くから長靴に立ちがんなといういでたちでボランティアの方とか議員さん、そして地元の方たちと一緒に……。花が咲く時には6万本と言われております。映画のロケ地として一躍有名になりまして、本当に大型バスで大勢の方がひまわりを見に来ていただいて、私たちが汗を流して植えたのが本当にこのように皆さんに愛されるというのが、嬉しいなというふうにいつも思っております。

それで今日は皆さんのお手元にボールペンをお配りしたんですけども、この間市長さんにお会いしましたら、北杜市のボールペンがあるんで、皆さんにお配りして大いに宣伝してくれということで……、ちょっと変わったボールペンなんです。

[参加者]

それは販売しているんですか。

[参加者]

販売じゃないです。市に訪れた方とかにお配りして・・・・・・・・。

[知事]

うまいじゃないですか。

[参加者]

今日皆さんに見ていただいて、大いに北杜を知っていただきたいと思うんです。

北杜も合併しまして、商工会女性部員が240人ぐらいいるんですけど、とても一つにまとめていくということが大変なんです。でも皆さんに声掛けして、自分たちのお店とか、その通りに寄せ植えをして、来て下さるお客さんの目を楽しませたりということで、美化運動に努めております。

それからやはり観光というか、北杜市も色々の素晴らしいものがあるものですから、色々なお客さんがみえます。有名人も結構いるんです。訪れる方たちが多いものですから、女性部が清里の観光協会の方たちと一緒にしまして美化運動に努めているんです。しかし、清里のほうから長野の県境ですね、トラックを止めて休む場所があるんですが、すごいごみなんです。それで本当に驚いたことに、その草むらにペットボトルが……。飲んでないのをこんなに捨てるのかなと思ったんです。そしたらそれがみんなトラックの方たちが用を足したペットボトルなんです。本当にマナーが守られていないんですね。

[知事]

あの野辺山と清里の間のあの辺の道路ですか。

[参加者]

そうです。その道を上がっていきますと、右側にちょっと広い所があるんですよ。その線路沿いというか、そこにはもうすごいんですよ。雑誌とか交換したタイヤとか。そしていっぱい入っているそのペットボトルに私驚いたんです。

それから今皆さんがおっしゃっていた地産地消というか、地元で採れた物の加工ですが。明野のほうに中山間の資金で明野の大根とかじゃがいも、そら豆ですね、まだ計画なんですけども、加工して、粉末にして販売をしたらどうかという話があって、今県と北杜市のほうで、もう何回か話し合いをやっているんですよ。それが実現すれば、そこで色々できるんじゃないかなというのを私も内心里で思っています。

[知事]

中山間事業で、いわゆる農産物加工施設というものでそういう補助制度というのがあるんですね。だからお金が出るんですよ。ただ要するにやる人がいなければだめなんだね、だれかがね。そこはどこの、だれがやろうとしているんですか。

[参加者]

私たちの女性部の前の部長たちと、そしてブルーベリーの方たちがいるんですね。私たちも検討会をする中で、一応株主、株というか会社を設立して、今11人なんですけども

一人100万ぐらい出資をして、そして何か立ち上げてやりたいということで、今一生懸命やっているんですけども。

[知事]

中山間事業をやっているところは、事業でそういうものは造れるし、あるいは商工関係の補助金みたいなものを使ってやることもできるし、やり方は色々あるんですよ。

[参加者]

市の担当の方も中山間のお金だけでできなければ色々なものがあるから、皆さんももっと勉強して、そして協力できるものは市のほうでも協力いたしますということ saying 下さっているんですけどね。

[知事]

事業化ということになるとなかなか大変だと思いますね。

[参加者]

そして、こういう機械を入れるというところまでは話がいているんですけど、その先がちょっと・・・もうその話になって2年ぐらい・・・。

[知事]

まあ事業化するとなると、今度販路を、売り捌かなきゃいけませんからね。そっこのほうが大丈夫かとか、いろんな問題が出てきますけどね。

[参加者]

そして今そのお話もちょっと業者の方というか、「もしそういうものが完成すれば私のほうで全面的に販売のほうはお話してあげますよ」ということで、その方も一緒になってね。そして料理研究家の方も来て下さって、「明野の大根とじゃがいもはとてもおいしいし、いいじゃないの」ということで話は進んでいるんですけど・・・。

[知事]

是非それは一つがんばっていただいて・・・。

[参加者]

はい、また色々よろしく願いいたします。

[知事]

はい、どうぞ。

[参加者]

いつもお世話になっております。

蕪崎では商工会、青年部と女性部が一緒になってイベントにはいつも協力しているんですけども、蕪崎の蕪をとりましてニラを入れた焼きそばとか、そして今味噌汁学校でこの間も新聞に出た「宇宙へ大豆を」なんて言っていましたよね。その大豆を畑に作っているんですよ。その大豆から作った味噌を使って何か物を作りませんかということで、とにかくイベントの時にそれを試してみようということで、女性部は味噌おでんとか、そして青年部のニラ焼きそば、それがものすごく売れるんですよ。ただそれが商品化ができないんですよ。その本当にそのイベントの時だけで。それがちょっと何か、もうちょっと何か考えて商品化できるものがないなとは思っているんです。

双葉にラザウォークが出ましたでしょう、そして蕪崎のライフガーデンが出たでしょう。それで益々蕪崎の街の中、衰退していくばかりなので、じゃあとにかくその街の商店の人たち、いつも会合を開いてどうしたらいいかということで、結局詰まるところは各自自分たちの店を守るほかないということで、そして企業努力をします。企業って、商店だから企業までいきませんが、努力をしなきゃもうどうにもならないと。各自でがんばりましょうという結論が出たんですけどね。ちょっと私ごとであれなんですけど、私のうちでも自動車修理業していますよね。そしてもう30年も40年も前から日本道路公団の仕事をやっているんです、ずっと。そしてたまたま何年か前に、「何か企業努力してますか」って公団の方に言われたことがあるんです。私、その時はとして、「何でしょうか」と言ったら、「工場をもうちょっと広くしたほうがいいですよ」と言われたんですよ。そこで考えまして、今のバイパスのほうへ工場を出したんです。そしたら、もう公団も今は中日本の会社になっちゃったんですけど、続けてずっと来てくれています。だからやっぱり企業努力というのは、ちょっと無理があってもしなきゃいけないなということを感じましたので、街の商店の人たちにも、とにかくみんなで努力しましょうということでがんばっておりますけれども。

[知事]

大事なことですね。

[参加者]

まあ知事さんにこんなことを申してもあれですけど、もう大型店が出るというのはもうやむを得ないですよ、あれはね。(笑)

[知事]

まあそうですね。私も抵抗しましたが、なかなか・・・。

[参加者]

食品を扱っているところは、大型店が出るなんていうと「本当にもう」なんてよく言うんですけども、やっぱりもうしょうがないなと思って、もう自分たちで努力しましょうということで結論は出ましたけれども。これからがんばってやっていきます。

[知事]

まあ本当に工夫をするということは大事なことだと思いますね。  
じゃあどうぞ。

[参加者]

西桂町からまいりました。知事さん、ソムリエの認定本当におめでとうございます。

私たちの町は織物と水の町で、町の花は水仙です。女性部と青年部が町との協賛で休耕地を利用して水仙を作っていこうということで取り組んでいます。

また、今は、子育て支援が進んでますけども、子育て支援どころか子どもがいなくなってきた、もう産んでもらわないとしょうがないような状況ですから、産む前には結婚を考えなければということで、何とか婚活ムードに乗り合わせて、男女の触れ合い、知り合う機会の提供などを考えています。

[知事]

結婚相談所をやっておられるんですか。

[参加者]

いいえ。(笑)

[知事]

やらないですか。やっている所もありますよね。かつて、まあ今はないかな。

[参加者]

ありますよね。若草なんかね・・・

[知事]

県も一回やってみたことがあるんですよ。ただあれはやめたということですね。というのは、やっぱり色々あるでしょう。ああいうところがずっとうまいんですよ。

[参加者]

有料とか商売もいっぱいあるんですよ。だからボランティアというか、本当にお金を掛けないで、婦人会でも今進めているんですけども。

[参加者]

南部町からまいりました。

私の所は知事さんご存知のように、みんな県外に出てしまうんです、若い人たちが。富士宮、富士、静岡、沼津のほうにみんな出てしまい、そのまま所帯を持ってしまうんですよ。増えてくれるのは本当に猿人口なんです。そして木の実を食べられてしまう、畑に作る物はみんな土の中の物も掘られたり、それからお米も鹿に倒されて、もう鹿とか猪が入るともう臭くて食べられないですよ、お米が。全滅しちゃいます。町のほうも何とか対策をとということでしてくれていますけれど、もう増える一方で、本当に52号にはいつ

も朝早くとか夜遅いと出ているんです。

[知事]

52号。猿が多いですか、鹿ですか。猿。

[参加者]

猿も多いですね。最近は猪より猿のほうがすごく多いです。作物も全部やられてしまつて、とうもろこしなんか作れません。筍祭りも、筍をよその県から持ってこないといけないんです。

[知事]

温暖化の影響ですか。筍が出ないんですか。

[参加者]

お猿さんが食べちゃうし、猪が掘っちゃうんです。

[参加者]

出たてはすごく甘くておいしいんですよ。

[参加者]

最初話しましたように若い人が出てしまうでしょう。本当にもう高齢化で、お年寄りがお年寄りと手を繋いでいくしか、もう……。山梨県でも一番最初に合併させていただいて1万人を超えていたんですけど、もう本当に9千人も欠けそうぐらい。商売も段々やめる人が多くて本当にさみしいです。

[知事]

南部町というのは住みやすくいい町なんですけどね。確かに人口が減ってきて大変だと思うんですけど、まあ中部横断道ができるとね、まあ静岡にも本当に15分ぐらいで行くようになりますからね。だからやっぱり色々な、静岡から当然田舎暮らしが好きな人もいますから、そういう人たちが移り住んできたりとか、そういうことが出てくるだろうと思うんですよ。

[参加者]

だからね、お花ぐらいしか作れないんです、特産品と言っても……。

[知事]

鳥獣被害の対策は、個体調整と呼んでいるんですけども、まあ言ってみれば鉄砲で駆除するしかないんですよ。県のほうも予算は大量に付けて、市町村に補助金を出して、市町村が猟友会に頼んでやってもらうんですけども、猟友会もみんなお年を召してきますから、なかなか予定通りに駆除できないんですよ。例えば猿なんかは年間に2千頭、

千何百頭駆除すると言っていますが、とてもそこまでできないんですね。それで困っているんですけどね。

〔参加者〕

猿も退治できるですか。

〔知事〕

できますよ。確かあれ1頭駆除すれば、いくらだったかな……。

しかし、やっぱり猿は駆除したがないんですね。そういうお金はあるんですよ。だけどなかなか撃ち手がいないんですね。

〔参加者〕

勝沼町とか大和でも農産物がみんな食べられちゃうみたいですね。

〔知事〕

いや、もう非常事態ですね。鳥獣被害の問題は考えなきやいかんなど思っていますがね。どうぞ。

〔参加者〕

私たちの住む丹波山は、本当の山の山の中で小さな村なんですけども、本当に年々人口が減ってしまっていて、生まれる子は本当に1年に1人とか2人とか、そういうような村なんです。そういう中で私たち商工会女性部もなかなかいろんなことをやりたいなと思っても、部員が本当に少ないし、特産物というのは本当に少ないので、何をしたいかということもいつも思っているんです。

今年、道の駅ができたんですね、4月から。それとあと鹿肉の工場ができてね、7月に夏祭りとかというイベントがあるんですね。それでその時に毎年商工会の女性部もいろんな販売をしたりするんですけどね、今年は鹿の肉を使ったカレーをしたんですね。それが意外と好評でして、これから丹波の鹿の加工場も、共に地域振興に貢献できるのではないかと考えております。私たちも本当にいろんなことをしていけたらいいなと常に思っているし、地域のためにがんばって進んでいきたいなと思っています。

小さな村なのでお客さんがやっぱり少なくて。やっぱりくねくねした道を、塩山のほうから上って柳沢越えて行くもだし、小菅のほうの都留峠を越えていくにも、東京都に出るにも本当に1時間以上掛かるんですよ、どっちに出るにしても。なものですから、道路の拡張、早急にいろんな所をやっていただけたらありがたいなと思うんですね。知事さんには本当にいろんな面で丹波山もみていただいているんですけども、よろしく願いいたします。私たちも本当に地域のためにがんばって商工会活動を続けていきたいと思っていますので、よろしく願いします。

〔知事〕

分かりました。特に411号でしたっけ。一生懸命あそこを整備しているんですよ。



[参加者]

そうですね。

[知事]

やっぱり塩山を経て、勝沼インターに出ていくというのが一番近いかもしれませんね。

[参加者]

そうですね。何かここに来るにも結構時間掛かりますし・・・。

[知事]

そうですね。時間は掛かるでしょうね。

[参加者]

いつも思うんですけど、おいらん淵の崩れた所、あそこはもう結構経ちますよね。ただけ  
どなかなかあのトンネルが開通しない。いつになったら開通するのかななんていつも思う  
んですけどね。

[知事]

まあ順調に工事は進んでいるんですけどね。大きい工事ですから。  
では、どうぞ。

[参加者]

鰻沢の商店街で割烹旅館を営んでおりますけれども、今年で創業90年になるんですけど、4代目となった現在も主人と店に出て伝統の味を守っています。鰻沢町は大法師公園の桜と富士川舟運の歴史と文化の町です。4月になると大法師公園が2千本の桜が咲き乱れまして、山がピンク色に包まれます。シーズンには県内外から5万人の観光客が訪れる桜の名所として、平成2年には日本桜の会から桜の名所百選に認定されたほどの見事なもので、私たちの誇りでもあります。しかしながら、人口の減少や高齢化進行ですね。そして近隣市町村への消費流出など厳しい状態が続いています。

鰻沢町では平成12年に町内にある税務署や法務局、そして裁判所などの6つの国の機関を集約しました合同庁舎を建設し、公益行政サービスと商店街を一体化して整備するシビックコア整備計画を策定いたしました。国道52号の鰻沢病院の跡地に国の合同庁舎を誘致していただき、整備して快適な商店街をと思って、希望でございますけど、商店街を取り巻く環境は日々刻々と変化しています。私はこの変化をどう捉えるかが重要だと思っております。つまり環境変化を経営の脅威と捉えるか、また一見脅威と見られる変化を自己の強みを生かしてチャンスとして捉えるか、この差であると思います。現実問題といたしまして、甲西バイパスが出まして52号線の通行量は半減いたしました。しかし甲西バイパスの開通が、消費者流出に拍車を掛け地域活力が低下するのではなく、大型車が通行できなくなる分ゆっくりと安心して買い物ができる環境が整ったと前向きに捉えて商売に

生かしていきたいと考えております。

私たち女性部の強みは全員前向きであるということです。地域女性部、団体や一般住民に人的ネットワークを持っているということです。色々ございますが、徒歩で買物ができる。そして高齢者や子どもたちが集うことができるコミュニティスペースを設けまして、女性部員の一人ひとりが商店街コンセルジュになって、消費者の皆さんの多様な要望にお応えできたらいいのではないかと考えております。

鰻沢の商店街は国道から少し奥に入ったところに幾つかの神社、仏閣が点在しております。国道の脇道はちょうど小道に近い感じがあります。そこを歴史文化の香りを感じさせる神社仏閣巡りの散策道として整備して、散策しながら商店街でお買物を楽しんでもらう。気持ちよく歩いてもらうためには沿道に住む住民の理解と協力、町の道路整備、支援が是非とも必要になってきます。将来的には、小布施のような地域の住民がまちづくりに積極的に参加するオープンガーデンを目標といたしまして活動を継続していきたいと考えております。

最後に鰻沢町は来年3月増穂町と合併し、新たな富士川町としてスタートします。増穂の皆さんと協力して県下の女性部と連携いたしまして、女性の強みである人的ネットワークを常に生かして、新しい地域づくりに積極的に取り組んでいきたいと考えております。どうか合同庁舎の問題は是非、知事さんお願いいたします。もうそれが出るか出ないかによって金融機関も態度が違うんですよ。実はうちも借金があるんですけど、合同庁舎が出ると決まると金融機関の態度が変わるんですよ。それで出ないと、もう返しなさい、返しなさいとなるんですよ。でも最初は使って下さい、使って下さいなんですけど、今度は返して下さい、返して下さい。まあ本当に現在の世相ですね。もう極端です。うちの主人もまあ15年間商工会長してまして、シビックコアの問題は本当に力を入れてきました。そして全店共通の商品券も、もう北海道から九州まで結構聞きに来ました。まあ本当に手始めにしたことですので、もう色々な形で努力はしているんですけど、町で一つ、最後に合同庁舎の問題がとにかく生きる力なんです。何とかよろしくお願いいたします。

〔知事〕

まあ合同庁舎の話というのは本当におっしゃるとおりだと思いますね。これは私も、まあこれは国土交通省の官庁営繕部という所なんですけども、東京へ行けば年に3回ぐらいは行って一念に要望しているんですけども、まあ順番があつてなかなか財政が厳しい中でですね、しかし甲府がようやく甲府合同庁舎ができることになったんですよ。まあいよいよその仕事、工事が始まるんだろうと思うんですけど、そうすると今度は山梨じゃこの鰻沢ということになるんですよ。年間全国で一つしか新しく造らないんですよ。順番が幾つかあるわけですね。甲府がようやくこうなって、ほかにもまだ幾つかある中で、鰻沢の話をしているんですけどもね。なかなかご期待に応えられなくて申し訳ないことですが、まあ引き続き、これはもう要望していくしかないんですよ。

〔参加者〕

そうですね。知事さんがいらっしゃる間に……。本当にもう町の方は希望を持っていますのでよろしくお願いいたします。(笑)

町民の希望、願いを背負って今日はまいりました。

〔参加者〕

一つ私、お願いがございます。

私も関東ブロック大会が来年7月8日に決定しました。それで知事さんには是非ご参加をしていただいて、大きな経済効果があると思うんです。大体千五、六百人が集まります。是非ご参加していただいて、山梨県PRをしていただきたいんです。一応場所は河口湖ステラシアターが会場になるんですけど、そこを決めるまでに色々あちらこちら見て回りました、やはり富士山を見てほしいということでそこに決めました。

〔知事〕

そうですね。最高じゃないでしょうかね。

〔参加者〕

最高なんですけども、富士山を見るのに、大きな木々があつてちょっと景観が……。木を少し切っていただければというお願い事なんですよね。

〔知事〕

河口湖町ですね。町長に言うておきましょう。

この人は河口湖町から毎日通ってきているんですけどね。ステラシアターに行ったことがあるんでしょう。

〔司会〕

ちよくちよく行っています。ステラシアター自体は非常に多く使われていますし、お客さんも多いですね。

〔参加者〕

関東11ブロックから女性部が集まりますので、経済効果はあると思います。先ほども言ったように、山梨県にはイベントをする会場がないんです。

〔知事〕

甲府だと県民文化ホールとか……。

〔参加者〕

はい、あるにはあるんですが……。人数とか駐車場の関係で、私たちはアイメッセをと思ったんですけどね、高いんです、使用料が。正直言って予算がございません。

〔知事〕

なるほどね。あんな倉庫みたいな所が高いんですかね。(笑)

ステラシアターのほうが安い……。

〔参加者〕

10分の1でしたね。

〔参加者〕

アイメッセが50万ですから、10分の1ですね。

〔知事〕

何でそんなに高いんでしょうかね。

〔清水 商工企画課長〕

産業支援機構という所が管理しております。

〔参加者〕

私の家のそばの人に、ちょうどいい所でご紹介していただいたんですが、お断りすることになってしまいました。あ、あれだけ立派な所だから、私たちもいいなと思ったんですけどね。

〔参加者〕

石和温泉郷の宿泊もだめになっちゃたよね。

〔参加者〕

じゃあ河口湖のほうに行きましょうかということになりました。

〔参加者〕

よろしいですか。先ほどルート52のお祭りの話ばかりしましたけれども、増穂にも柚の里、色々と柚の加工したのを売る建物があるんです。そこは、まあ以前は農協だったのを改造しまして、そして地元の方たちが色々と加工して、柚ポン酢とか、それから柚味噌とか、柚のゼリーとか、色々と今その農協の方々が、商工会は携わってませんが、農協の女性部の方たちが色々と研究して、その食品を作っている所があります。それもやっぱり増穂の産物の一つですから、一応お話しておきたいと思ひまして話しました。

〔司会〕

お話はつきませんが、大分予定の時間を過ぎておりますので、知事のほうから今日の感想を含めまして、まとめのあいさつをお願いします。

〔知事〕

皆様方がそれぞれ地域、地域で一生懸命おやりになっているということが改めてよく分かりまして、本当にありがとうございました。いろんなご指摘がありましたけれども、我々としても確かにおっしゃるとおりだろうなということもたくさんありまして、努力をし

なきやいかんなというふうに思います。鳥獣被害の問題だとか、結婚の問題だとか、道路整備から鰺沢の合同庁舎も長い課題でありますし、アイメッセの値段が高かったりとか、国際会議場みたいなものができますとね、本当はそれがいいんですけどもね。今のこの財政が厳しい時に県民が、まあ100億ぐらい掛かるものをいいと言うかどうかですけどね。確かに山梨県には本格的な国際会議場がないということはありますですよ。まあそれも検討してみたいと思います。それから色々な物産をそれぞれお作りになろうとしているわけですけども、大変いいことで、こういうものをもし商工会の女性部が主催をして、例えば富士の国やまなし館で1週間なら1週間借り切って、一つそれぞれの地域の、まあ女性のいろんなグループがあつていろんなものを作っているんですよ。しかしそういうものを売る機会が余りないんですね。だから、例えば商工会女性部が中心になって、そういう中でいいものを集めて、増穂なら増穂で、じゃあこういうものを出そうとか、そういうものを集めて、そして富士の国やまなし館でそういう物販のイベントをやるといふようなことがあるとすれば、それは十分場所は提供できます。これは問題なくできるようになっていますので・・・。

〔清水 商工企画課長〕

実は売上げの10%を・・・

〔知事〕

売上げの10%。だから売れば・・・。(笑)

まあ、そういうこともありますけれども、是非一つ、地域の女性の皆さんが元気になる一つの糧ですから、いろいろとお考えになっていただきたいと思うんですね。

時間が足りなくて申し訳ないんですけど、まだまだおっしゃりたいことはたくさんあると思いますが、本日はありがとうございました。

〔参加者全員〕

ありがとうございました。

〔司会〕

それでは以上をもちましてひざづめ談議を閉めさせていただきます。